

Press Release

2010年7月20日

株式会社オンワードホールディングス

UNHCR 駐日事務所

～あなたのオンワードの服が希望をつなぐ毛布に～
「オンワード・グリーン・キャンペーン」 UNHCR 協力による難民支援活動報告
 Bangladesh の難民支援のために引き取り衣料をリサイクルした毛布 3,000 枚を寄贈

株式会社オンワードホールディングス（本社：東京都中央区 代表取締役会長：廣内 武）は、「オンワード・グリーン・キャンペーン」を通じてお引き取りした衣料をリサイクルすることによって毛布を生産し、UNHCR 駐日事務所（東京都渋谷区 駐日代表：ヨハン・セルス）の協力のもと、世界の難民支援のために寄贈する社会貢献活動を実施しており、第一回目の寄贈として、Bangladesh への毛布 3,000 枚の配布が終了いたしました。また、この取り組みに対して、UNHCR 駐日事務所からオンワードホールディングスに対して、感謝状が授与されました。

「オンワード・グリーン・キャンペーン」は、オンワードグループが推進する環境経営の一環として、不要となったオンワード櫛山の衣料をお引き取りし、可能な限りリユース、リサイクルすることで、衣料品の循環を促進させる環境貢献活動です。さらに、回収した衣料から毛布を生産し、UNHCR の協力のもと世界の難民支援のために寄贈する社会貢献活動も実施しています。

2009 年度は、25,608 人のお客様から 130,649 点の衣料をお引き取りし、リサイクル 61%・リユース 39%で活用しました。リサイクルに関しては、衣料からリサイクル糸（再生繊維）を作り、この糸を使用して毛布 3,000 枚、軍手 54,500 双を生産しました。

第一回目の難民支援活動は、Bangladesh を対象に実施しました。同国には約 2 万 8 千人のミャンマー出身の少数民族であるロヒンギャ難民が難民キャンプにおいて避難生活を送っています。また推定では 20 万人以上のロヒンギャ難民が難民キャンプ外にて生活しています。

3,000 枚の毛布は、2010 年 3 月に Bangladesh に到着しました。その後、コックスバザールにある UNHCR の協力のもと、一ヵ月半かけて同地域にある難民キャンプと難民を受け入れているコミュニティや医療機関に配布されました。難民キャンプへの配布は、UNHCR のデータベースに基づき、キャンプ内でも特に弱い立場にいる難民の中から家族内に成人男性のいない「女性世帯主世帯」450 世帯を選定しました。また、コミュニティや病院への配布は、それぞれの施設の規模に合わせて実施されました（配布先と配布枚数の詳細は別紙を参照下さい）。

寄贈先の反応は、配布した毛布の質や色がどの施設でも好評で大変喜ばれました。UNHCR には病院の院長、医師、責任者からお礼の手紙が届いているほか、地元の複数の新聞に配布の様子が掲載されました。毛布の配布は、難民や病人といった弱い立場にいる人々に快適さをもたらすだけでなく、国や地域の組織と UNHCR とのつながりを深める一助となりました。

オンワードホールディングス及びオンワード櫛山は、今後も UNHCR 駐日事務所の協力のもと、世界の難民支援活動として、毛布の寄贈を続けていきます。

<本件に関する報道機関からのお問い合わせ先>

㈱オンワードホールディングス 広報・環境部 担当 白井・西森 Tel : 03 (3272) 2375 email : k-nishimori@onward.co.jp

UNHCR 駐日事務所 担当 守屋 Tel : 03 (3499) 2011 email : moriya@unhcr.org

■オンワード・グリーン・キャンペーンについて

オンワード樫山では、「衣料品メーカーとして自社製品の循環に責任を持つべき」という考え方にに基づき、過去に販売した衣料を引き取り、可能な限りリサイクル・リユースすることを通じて衣料循環システムの構築を目指す「オンワード・グリーン・キャンペーン」を2009年度よりスタートしました。

引き取りした衣料は、東南アジアを中心にリユースされる他、原料化してリサイクル糸を作り、毛布や軍手を生産することで資源を有効活用しています。さらに毛布は UNHCR の協力のもと、世界の難民支援のために寄贈、軍手は森林保全活動に携わる方へ寄贈するなどの社会貢献活動に活用しています。



■国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR: United Nations High Commissioner for Refugees) について

国連総会決議によって1950年12月14日に設立され、翌年1月1日に活動を開始しました。UNHCRは人道的見地から紛争や迫害によって故郷を追われた世界の難民の保護と難民問題の解決へ向けた国際的な活動を先導、調整する任務を負っています。難民の権利と尊厳を守り、すべての人が庇護を求める権利を行使し、安全に庇護を受け、延いては自主的に帰還、あるいは庇護国に定住、または第三国に定住できるように努力します。設立以来この50年以上にわたり、5,000万人以上の生活の再建を支援し、現在は約7,000人の職員が世界約120か国で3,600万人の支援に従事しています。



■バングラデシュのロヒンギャ難民について

現在バングラデシュは、隣国ミャンマーのラカイン州北部から逃れてきたロヒンギャ族の難民2万8,000人を、コックスバザール地区に位置するキャンプ2ヶ所で受け入れています。1991～92年には、25万人ロヒンギャ族がバングラデシュに流入しており、現在残っているのはこのうちの一部の人々です。大量流入したロヒンギャ族のうち約23万人は2005年までにミャンマーに帰還し、20あったキャンプの数も現在2つへと減っています。しかしながら、未登録の難民は約20万人いると推定されています。



■毛布の配布について

配布先	配布枚数	配布日
チッタゴン医科大学付属病院	1,500枚	3月29日
サダール病院 (コックスバザール)	250枚	3月31日
コックスバザール郡病院	350枚	3月31日
キャンプ内で特に弱い立場にいる難民	450枚	4月10日
ナヤパラ難民キャンプの入院施設	50枚	4月22日
ナヤパラ難民キャンプの在宅治療患者	25枚	4月22日
クトゥパロン難民キャンプの入院施設	50枚	4月22日
クトゥパロン難民キャンプの在宅治療患者	25枚	4月22日
キリスト教記念病院 (Malumghat)	100枚	4月22日
ホープ財団産科・小児病院	100枚	5月17日
Baitush Sharaf 眼科病院 (コックスバザール)	100枚	5月19日
合計配布枚数	3000枚	



毛布を積んだ UNHCR のトラック



バングラデシュ UNHCR の倉庫から
運び出される毛布



コックスバザール郡病院の医師への毛布引き渡し



サダール病院への毛布引き渡し



Action Contra La Faim の倉庫で ACM に
引き渡される様子



キリスト教記念病院への毛布引き渡し



Bangladesh、クトゥパロン難民キャンプ。
 寄贈された毛布を持ち帰るミャンマー難民の
 女性たち



Bangladesh、クトゥパロン難民キャンプ。
 寄贈された毛布を持ち帰るミャンマー難民の
 女性たち



Bangladesh、クトゥパロン難民キャンプ。
 寄贈された毛布を持ち帰るミャンマー難民の
 女性たち



Bangladesh、クトゥパロン難民キャンプ。
 寄贈された毛布を持ち帰るミャンマー難民の
 女性たち



Baitush Sharaf 眼科病院への毛布引き渡し

